

「歳を重ねるってどういうこと？」 高齢者擬似体験研修会

2013. 1. 19(土) 約2時間 10名参加

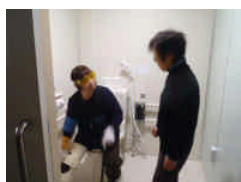


社会福祉法人栄和会 事務局長・総合施設長である瀬戸雅嗣氏を講師に迎え、高齢化が進む小樽で、歳を重ねることで変わってくること、新しい発見、あじわい、楽しいこと、淋しいことなど高齢者擬似体験をとおして、高齢者の理解を深めました。



瀬戸講師による講義の後、実際に片麻痺に近い高齢者擬似体験を行いました。高齢者擬似体験とは、利き手利き足にサポーターと重りをつけ、皮膚感覚を鈍くする手袋、視野を狭くする専用ゴーグル、聞こえずらい状況にする耳栓を装着します。また、前かがみにするための重りを入れたベストを着用して行動します。

小樽市総合福祉センター内を二人一組のペアになっていただき、普段何気なく使っている電話やコピー機を使うこと、トイレ、ソファからの立ち上がり、階段昇降や箸での豆つかみ、新聞めくりなどの体験をしていただきました。



体験終了後の話し合いでは、「横に元気な人がいてくれる大切さを感じ、自分自身よりも横で見守っている人の方が大変ではないかと感じた」「電車の乗り降りを擬似体験のような身体で行うことを恐怖に感じ、高齢者が閉じこもりがちになってしまうことも仕方がないのかなと感じた」「同じ障がいの人がないということは頭ではわかっているが、擬似体験をすることで理解が深まると思う」などの感想、意見がありました。みなさんととても真剣に取り組んでいただきました。

第14回小樽ボランティア会議

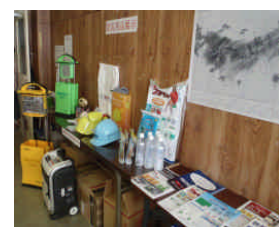
「災害時に活かせる 地域や病院の取り組み～大切な人と生き残るために～」2013. 2. 23(土)

主催：小樽ボランティア会議

第14回目となる小樽ボランティア会議では、まず高島町会監査柳澤邦利氏より小樽市の津波ハザードマップをもとにして昨年夏に実施された高島町会のDIG研修会と避難訓練の様子や防災訓練から見てきたことについてお話いただきました。続いて、小樽市の災害派遣で宮城県気仙沼市や岩手県陸前高田市に入られた後、市立小樽病院内での取り組みを進めておられる岸川和弘医師にお話しを伺いました。その中で、南小樽駅で列車の脱線事故が発生した場合などのシミュレーションを実施されており、その際に市立小樽病院で受け入れられる重傷患者数は2名であるという話がありました。災害時は病院もまた通常の動きができないということを私たちも頭に置いておかなければいけません。また、最新の防災用品を展示し、専門家から説明を受ける場を設けました。家庭や地域、企業などでの取り組みの参考になる盛りだくさんの内容となりました。

あなたも「小樽ボランティア会議」に参加し、一緒に活動しませんか？個人団体問わず参加自由です。ご興味がある方は事務局の当センター(33-5299)までご連絡ください。

参加者：84名 (36団体、個人9名、33地域(市外含む))



2012. 10. 23 すみれ会が北海道社会貢献賞(地域活動推進功労賞)を受賞 おめでとうございます

2013年度の主な事業予定

(予定は変更される場合があります)

日 程	内 容
5月11日(土) [助成団体申請期間：2月12日～3月15日]	2013年度ボランティア・市民活動助成事業 公開 計画案の提示説明会(プレゼンテーション)
5月25日(土)・26日(日)・28日(火) 9:00～16:30 [申込み期間：4月24日～4月30日]	第32回ボランティアスクール(入門講座)
6月22日(土)・29日(土) 9:00～16:00 [申込み期間：6月4日～6月11日]	活動に活かそう、コミュニケーション力～2013年度コミュニケーションカスキルアップ研修会
8月下旬	小樽市「障がい者週間」啓発事業 ほほえみフェスタ2013 ボランティア活動パネル展
10月1日(火)	赤い羽根共同募金街頭啓発
10月	小樽ボランティア会議防災啓発事業
11月30日(土)	指定地域福祉教育懇談会
12月1日～1月初旬	カレンダーリサイクル活動(年内収集、年内配布を目指しております。ご協力お願いします!)
2014(平成26)年 1月25日(土)	高齢者擬似体験研修会
2月22日(土)	第15回小樽ボランティア会議
2月11日(火)～3月21日(金)	2014年度ボランティア・市民活動助成事業 助成申請受付